

令和元年度国有林モニター会議（大阪）意見交換会概要

令和元年9月7日(土) 14:10 ~ 15:10

近畿中国森林管理局 四階 第3会議室

エキスポ'90みのお記念の森周辺の不法投棄の状況はいかがでしょう。
不法投棄防止用の監視カメラなども設置しているのでしょうか。ビデオに録画することで犯人がわかることが、身近でありました。

大阪府及び箕面市の職員といっしょに年に一度「クリーン作戦」を実施しています。その甲斐があつてか、だいぶゴミが減ったように思います。

カメラは設置していませんが、森の管理をお願いしているボランティアの方が、精力的にパトロールをされている効果も大きいと思います。

地元には三カ所の国有林があつて全て保安林となっています。そこで森林散策をしたり、樹木の名札付けの作業をしたりしています。そうしたことができるのは、市民と県の環境行政との接点があるからです。今回箕面森林ふれあい推進センターの活動を拝見して、森林行政が森林環境教育の場に入り込んでいるのは、（森林が所在する）地元だからかなあとと思います。その点については、地域間格差があるように感じます。毎回「こだま通信」を見ていると箕面市だからできるのであって、私の地元では出来なんでしょう。森林管理局は、森林環境教育についてそれぞれの県に働きかけをしていると思いますが、市町村とか教育委員会とかにどのようにして働きかけをしているのか以前から疑問でした。

「遊々の森」という制度があります。学校、教育委員会、市町村が子供たちの教育のために国有林をちょっと借りて、そこで遊んだり、林業体験したりする仕組みがあります。以前に石川県で勤務したことがあります。そこでも「遊々の森」の仕組みです。

福井県（質問したモニターが福井県在住）ということですが、地元で熱心な方がおられればフィールド(国有林)の提供ができるところもたくさんありますし、いろんな協力、たとえば講師の派遣といったこともできます。福井森林管理署にご相談いただけるといろいろな方法があると思います。

営林署の時代は、市民との接点が多かったが、森林管理署になって（関係が）疎遠になったように思います。できるだけ森林管理署とも仲良くやっていきたいと思っています。

かつては植樹祭などを開いて、市民を招待していたことがありましたが、今は植樹するところもあまりなく、そういう意味では接点もなくなっていますが、森林教育という面では、一生懸命やろうと考えています。

福井県では、「気比の松原」において地元中学校といっしょになって落ち葉かきなどをさせていただいています。地域と連携しながら（活動を）やっていくことになると思います。

今年から森林環境譲与税の交付が始まり、（その財源を活用して）森林整備の手入れが行き届いていない山の間伐などを実施するのがメインとなりますが、森林環境教育のために使用することも可能です。

台風の被害については、原因をしっかりとつかんでいるのかわからないが、植樹したのが一つの原因ならば、再び植樹しない方がよいのではないのでしょうか。

また、木を植えずに放っておくよりは、違う方法で整備する方がよいのではないのでしょうか。

オオクワガタの棲める森づくりの活動をはじめて知りました。もっとPRしてはどうでしょうか。

紙の資料が多すぎます。今までに配付を受けたものもある。これならプロジェクトを使用しての説明にしたほうがよいでしょう。

初めて国有林の中を歩かせていただきました。みのお記念の森で子供の遊ぶ姿が印象に残っています。しかし自分の近所でこのような森はありません。近江八幡市に「奥島山国有林」がありますが、このように整備はされてはいません。

さきほど「格差」という話がありましたが、大阪のような森が少ないところからこのような森が整備されているのか、どうしてなのか教えてください。

みのお記念の森は国有林の中にありますが、実は国が整備したものではありません。大阪府からこのような事業を行いたいので貸してほしいという申し出があったそうです。有名な国有林などは、地元市町村や民間企業が運営しているところがほとんどです。地元の力の入れ方によって格差が出ていると思われます。

大阪の場合も中心部に山がないため、森林管理局の大阪出身の職員も子供の頃の遠足で箕面へ行ったとみんな言います。「府民の森」というイメージで整備がされたのでしょうか。そういうところでも格差が出ていると感じます。

森林環境譲与税が創設されたそうですが、どういうところにお金が入って行くのですか。県や市とかに入っていくと思いますが、みのお記念の森のような森の整備に使われるのですか。

基本的には市町村に入って行きます。市町村で森林整備とか森林教育に活用されます。大阪府のようなところでは、建物を木造化しましょうとか、都市部の市町村は、山間部の市町村と提携して山間部の森林整備に協力するとか、これから各市町村が工夫しながら活用することになると思います。

倒木の処理にヘリコプターを使用し、数千万円を使うのはいかなものかと思います。(隣接する道路を) 通行止めになれば必要なかったのではないのでしょうか。

倒木撤去の後に広葉樹を植樹する予定ということですが、場所が都市近郊ということもあるので、自分で植えたい樹木を募ったり、森林教育の場所にしてボランティアに管理してもらったりしてはどうでしょうか。

みのお記念の森でのヒノキから広葉樹へと植え替えを予定していることは、よいことだと思います。公園の整備については、環境省の事業と似ているように思います。将来的には国民に親しまれる公園を整備する組織に整理してはどうでしょうか。財政事情が苦しい中、もっと効率よく国の機関も変えていくべきだと思います。

見ていただいた現場は、林業技術的にはワイヤーロープを谷に張れば問題なく集材できると思われます。ただし、観光地でもあり、地域経済に与える影響も大きく、(隣接する道路の) 通行量も多いことなどを勘案してヘリコプターを使用しました。そのまま放っておくと二次災害の発生も考えられることから早く倒木を撤去する必要もありました。

環境省との連携というお話がありましたが、シカの捕獲や貴重な動植物の保全といったところを連携して行っています。来年からこの近畿中国森林管理局の庁舎に近畿地方環境事務所が移転してきますので、連携がさらに進むと考えています。

(倒木を撤去した後) 植林しないのも一つの方法という話がありましたが、そこにもともとあった樹木を植林した方が斜面の再生という面からは早くて適していると思います。

シカ被害の対策について具体的にどんなことをしているのかお聞きしたいのですが、シカ避けのネットはよく見かけます。もっと積極的な対策を行っている状況を教えてください。

また、国有林野の管理経営法の改正について現在局内ではどんな状況で進んでいるのか教えてください。

倒木撤去後の再生についてですが、周りに木が生えていますので何もしなくてもいずれ種が飛んできて木に育ちます。ただいつまで待てるかという問題があります。現在土がむきだしの状態なので、土が川に流れたり崖崩れの恐れがあるので何らかの樹木によって地盤を固める必要があります。自然に天然更新が完了するには約10年かかりますのでそれまで待てるかということになります。このため地域の皆さんの要望もお聞きしながら何らかの木を植栽したいと考えています。

シカの対策ですが、今日は守る、ディフェンスの面を見ていただきましたが、積極的に有害駆除も行っています。今日視察した地域では猟銃が使えないので、罠を使った捕獲を猟友会に委託しています。

平成27年度から年間100頭前後を捕獲しています。大阪府や箕面市とも連携しシカだけでなくイノシシも捕獲しており、実際頭数が減っているのかを糞塊をみて調べています。また、カメラを設置している場所があって、シカの動きや夜間に動く行動範囲を調べる調査も行っています。5年間やってきて着実に頭数は減っていますが、環境省が示している被害が発生しないレベルにまで達していないので当面の間は捕獲を継続していきます。さきほど植栽という話もありましたが、植栽するなら防護柵等を設置しながら捕獲も行う、そういう併用するやり方を行う必要があります。「平成31年度重点取組事項」2ページにも御紹介しています。大きく分けて対策は2つありまして、一つは囲い罠や足くくり罠を設置し、捕獲して頭数を減らしていく、また新植箇所等の保護として今日見ていただいたネットなどで防護する方法があります。（「平成31年度重点取組事項」2ページの下の方に）小林式誘引捕獲罠を御紹介していますが、職員に小林という者がおりまして捕獲技術の開発に取り組んでいます。またシカ避けネットに穴がないか、シカが引っかかったりしていないかなどの確認作業は従来人海戦術でパトロールしていましたが、通信技術やドローンを飛ばしてネットの確認をしたりしていますし、罠にかかったらICTで電波により知らせてくるといった新しい技術の導入も積極的に行っています。

国有林野管理経営法の関係ですが、具体的には今後検討していくこととなります。

初めてモニターになって、国有林がどんなところにあるかもわかりませんでした。4月から資料を見させてもらって回りにいっぱい森林はあっても国有林は少ないと思っていました。今日もともとお寺の持っていた森が国有林になったという話を聞いて学習させてもらいました。箕面の森だったり、災害現場は昨年北摂霊園に行くのに通行止めになっていたのも、そこでそういう作業をされてたんだなと知ることができました。千本ぐらいの倒木を出すのに一本当たり2~3万円、またそれ以上にお金がかかっていることになりましたが、その後ちゃんと →

→ 利用されているのでしょうか。目に見えないところでいろんな作業をされているのがわかりましたし、箕面の森に行かせてもらい改めて行ってみたいと思いました。地元の市町村との連携が大切ということがわかりました。

被害倒木は木を処理した業者に買い取ってもらっています。おそらくバイオマス燃料になっているものと思います。きれいに伐採した木は柱や板に加工されますが、台風で倒れた木は繊維が切れたりしていますので柱としてはなかなか使えません。

趣味がハイキングで里山を歩いたりしています。民有林と国有林との整合はとっているのですか。

隣接しているところは一緒に整備した方が効率的です。このため民有林と国有林の林道を相互に利用することなどを協定した「共同施業団地」という制度があります。個人、市町村、県、国等が所有する森林を集約し、連携して事業を行いましょうという制度です。国有林の近くでどうしても公益的に手入れをした方がいいという場合は、林野庁が直接民有林を整備する制度もあります。

たしかに民有林の山がほったらかしになり、誰の山か所有者もわからない状態で荒れているという問題がありましたが、新たに森林経営管理法ができて、市町村が地域の荒れた山をまとめて、森林環境譲与税を使って直接整備を行う制度がスタートします。今までは持ち主がわからない山は手をつけられませんでした。森林経営管理法ができたことで、公告して知事が認定すれば持ち主がわからなくても森林整備ができるという形ができたので、これから（この制度が）進んでいけば森林の整備が進むと思っています。

（みのお記念の森で）子供たちが毎年来ているということを知ったので、子供たちがここで遊んで、お弁当を食べて楽しそうにしていると思います。自分も子供たちと関わっています。途中で「指令書」というのがありましたが、できればもっといろんな学年が体験できるようなことができると思います。子供たちがもっと木に親しんで、木が好きになって、将来木に携わる大人になってくれるんじゃないかと思っています。

子供たちだけでなく、学校の先生を対象にした研修も行っています。先生たちに森林に興味をもってもらうことが、子供たちに教える時にも役に立つと思います。先生たちへの研修にも力を入れています。

10年前に東京から白浜に移住しました。山に興味はなかったのですが、和歌山県の山を見たとき「きれいだなあ」と思いました。人工的にできた山だと思いましたが、これが本当に正しい姿だと思います。国有林として管理されているのか、民有林として管理されているのかわからなかったのですが、国有林そのものは増えているのか減っているのか。さっき民有林の解決策が出てきた話がありましたが、どこが管理するかで変わってくると思います。最初に国有林と決める時はどういうことで決めているのか。シカとかイノシシの話がありましたが、極論ですがシカやイノシシは完璧に獲っていけば絶滅危惧種になりますか。

完璧に獲っていけば絶滅危惧種になります。シカがこれだけ増えたのも戦後ほとんど絶滅に近くなって保護した結果です。ついこの間までは雌ジカは獲ってはいけないことになっていました。各県で保護管理計画を立てていて適正な数にコントロールしようとしています。頭数を減らす方の圧力が足りなくて今問題になっています。

適正な数の基準はその都度変わるとは思いますが、完璧に獲るといえるのはいかなものかだと思います。以前はそれに近いところまで獲りましたが、今は増えています。これから人為的に数をコントロールすることはできますか。

今は増えてしまったのでコントロールは難しいと思います。シカは一年で20%増えると言われていています。一万頭いれば二千頭獲っても数は変わりません。森林被害を減らすには1ha当たり二、三頭で抑えなくてはならないと言われていますが、今全国的には20頭30頭いると言われていています。最も多いところでは50頭くらいいるそうです。だから今一生懸命獲ろうとしています。

(捕獲に)かかるコストはすごく掛かっていますが、それに見あう成果は得られていないということですか。

見あう成果はあります。(何もしないと)まず林業はダメになっていきます。イノシシによる農業被害は多くなっていきますし、もっと問題なのは環境を破壊してしまうということです。(かつての勤務地で)天然更新をして太い木がたくさんあった国有林がありましたが、シカの食害により今では森林は消え、地肌が出てしまっています。南アルプスでは高山植物が食べられてしまいお花畑がなくなってしまうました。今、心配しているのは白山です。これまでシカはいませんでした。今入り始めています。そうなれば白山の高山植物は全滅してしまう恐れが

あります。そういう標高の高いところにまでシカが来ています。

北大の演習林や京大の演習林は、国立大学の農学部が管理していると思いますが、林野庁として、昔自治省が自治医科大学を作ったように、林業に特科した大学を作れないものかと思います。今日の鳥獣被害や国有林の管理を教える、そういう構想はあるのですか。国全体から見たらものすごい重要な資源ですし、林野庁の上は農林水産省なので（他省庁が）医学部や産業医をつくったようにすればどうでしょうか。

全都道府県に一校は国立大学がありますし、農学部はないところもありますがかなりのところであります。また、林業大学校、専修学校のような位置付けの学校が各県や市町単位で開校しています。

近畿中国森林管理局管内でも各林業大学校と協定を結ぶなどして協力していくことにしています。

環境省はレンジャーという人がいますが、国有林にそのような人はいますか。

森林官がいます。森林管理局の下に森林管理署、森林管理事務所という組織があり、さらに出先に森林事務所があって、そこに森林官が常駐し、実際に山を歩いて国有林を管理しています。

環境省ももっと市民にレンジャーをアピールすればいいと思いますが、（林野庁も）地元の小学生にこんなことやっていますよとPRしてはいかがですか。

民間のノウハウを入れればいいのですが。あと資料が多すぎます。ペーパーレスと言われて久しいですが、今でもペーパーがないと会議ではないと言う人がいます。欧米の会社では会議に来るまでに自分の考えを持って来させています。今までたくさん資料をいただきましたが、見ずに捨てていることがあります。

PRが下手だとよく言われています。

ご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。

転勤族でしたが10年程前に東京から鳥取県倉吉市に移住しました。

鳥取県は大山をベースとしてきれいなところですが、遠目は抜群ですが、（近くで見ると）荒れているというのが感想で、見えないところに廃棄物が多くあります。

県庁の食堂に行きますとジビエカレーがあり、ジビエ料理を盛んにやろうという感じがします。実際私も狩猟免許を持っており、倉吉市の許可があれば（狩猟が）でき、年間10から13頭のイノシシが獲れます。獲ったイノシシのシッポを持って行くと（市役所から）お金がもらえますが、なかなか被害を減らすところまでは行けません。

今日いろんな話を聞いて、林野庁の仕事は広範囲で多岐にわたっていると思いました。

倒木に対するいろんな質問や意見がある中で、金もかかるけれど耐えて業務を進めて行くのは御苦勞様だと思います。倒木処理はやらなければならないのは事実でたいへん御苦勞なことだどつくづく思いました。

木材供給の20%は国有林の木材で、木材産業は廃れることはないでしょうし、日本全体をとらえると山の国ですので木材管理は大事だと思います。これからますます重要で期待される仕事になると思います。

お金をかけない方法で森林をよくすることはできない。（鳥取県でも）山の上の方から集落が消えており、消えると同時に畑がなくなっている。それが町の方まで近づいて来ているのも事実です。私も溪流釣りを10年前からやっているのですが、年々山が廃れていくのを実感しています。田畑がなくなり、民地がなくなり大変です。ここはどういう風になるのか聞いてばかりいないで、いろんなところを見てもらって一つ一つ考えてほしい気がします。

私、倉吉に来まして、窓から大山がきれいで四季観を見ながら暮らしていますが一番訴えたいのは、倉吉ではほぼ毎週猿やイノシシが出ます。近くの田んぼは全部消えてなくなり、すごいですよ。それほど町中にすでに来ているのですね。どう解決するんだろうと日々考えています。

今日初めて参加して、どういう風に関わっていいのかわからないので、国有林の活動をもっと知らせる方法を真剣に考えた方がいいと思います。皆さんこれだけ真剣にがんばっているのに林野庁と国有林という言葉は知っているが、この人たちは何してるんだろうと思っている人が多い。昔と違いSNSなど手段はたくさんあると思います、あんまりデスクワークで考えるのではなく、みんなで外へ出て行って一人でも二人でもファンを作るような努力をした方がいいと思います。100年も掛からないので、必死になって考えた方がいいと思います。